Reminiscences of Nippon's Soul





忘れたくない、にっぽんの心...

着物は日本の民族衣装。その柄を未来へつなぐために――

日本では年間約1兆円相当、72万トン以上の着物が廃棄されていると言われています。

着る機会を失った着物たちが、燃えて消えていく現実――

キモノボードは、そうした着物の*布の一部、を切り取り、ARTとして、暮らしに息づかせる、

日本の美を"あたらしいカタチ"で未来へつなぐ取り組みを行っています。



―― 時を越え、きものの柄が語り継ぐ。

今を生きる私たちが紡ぐ、新しい文化のカタチ。

伝統は、守るだけではなく、育てていくもの。
そのために、過去を慈しみ、今の暮らしに寄り添いながら、
未来へ問いかける"布の想い"を、アートとして発信しています。
一枚のキモノから生まれたキモノボードは、
やがて誰かの心にそっと根づき、また次の循環へと
つながっていけばと願います——

にっぽんの心がこのARTで、未来へつなぐ小さな波紋へとなりますように・・・



CONCEPT

 SEI · DOU · MYAKU · KA

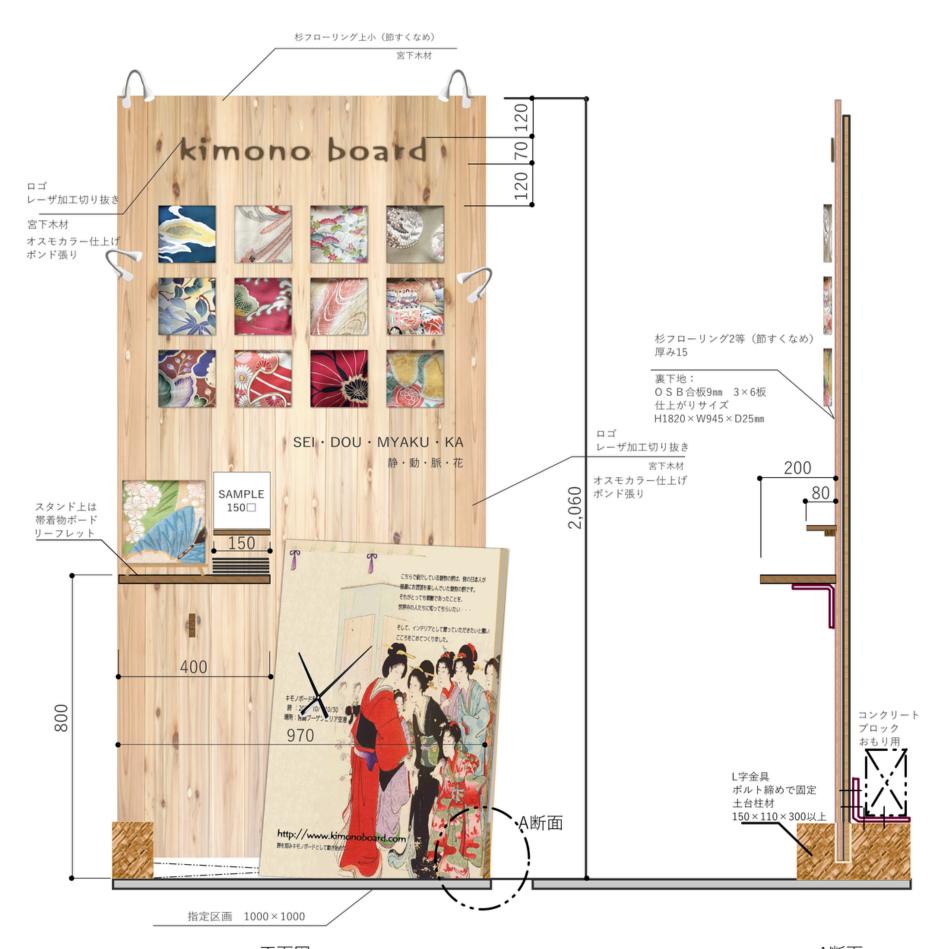
 静 · 動 · 脈 · 花



CONCEPT

S E I · D O U · M Y A K U · K A 静·動·脈·花





"暮らしの中で感じる、ココロの動き"を表現。



花

SEI · DOU · MYAKU · KA

静・動・脈・花

- 静:「静けさ・凛とした美しさ」
- 動:「ささやかな変化・日々のリズム」
- 脈:「心の鼓動・命の流れ」
- 花:「感情の開花・華やぎ」

- ①《寄せるしずく》正絹 平成着物 海と島影。静かさの中の広がり。
- ②《ぬくもりの庭》正絹 昭和着物
 淡い花たちが語りかける記憶の場所。
- ③《峠をこえて》正絹 昭和着物 山道を越え、風が語る。
- ④《やわらかな日》正絹 大正~昭和初期着物 古布 生成りと薄黄色が柔らかくひかり、何気ない日常の一瞬。
- ⑤《芽吹きの気配》正絹 大正~昭和初期着物 古布 土の匂いとともに、始まりの合図。
- ⑥《波立つままに》正絹 昭和着物 紅と白、勢いある波と松が立ち上がる。
- ⑦《ひかりを追って》正絹 平成着物 きらめく軌跡。時間が動き出す場所。
- ⑧《咲きこぼれる果実》正絹 昭和着物 実りの色が、あふれるように咲いている。
- ⑨《葉かげのリズム》正絹 平成着物 留袖 風に揺れる、命のさざ波。
- ⑩《ほころぶリズム》正絹 昭和工期~平成着物 花模様と曲線が生み出す、軽やかな鼓動。
- ①《真紅の脈》正絹 昭和工期~平成着物 心の奥、静かに強く打つ鼓動。
- ②《よあけの花》正絹 大正~昭和初期着物 古布 深い夜を越えて咲く、命の花のような。
- ③《めぐる季節》※帯 正絹 平成 春夏秋冬、色が巡る。過ぎゆく時間の中で。
- ④《オリーブ | ことの実》※新作 正絹 令和 枝先に宿る小さな"こと"。やさしく、確かに実っている。 チリントゥ工房さんに生地をお渡しして染めて頂いたもの。 こちらの作品はキモノボードcubeの単体のサンプルとなります。

HOTEL



Hotel Abest Happo Aldea 【ホテルアベスト八方アルデア】

ホテルのディレクター様からの依頼で始まった企画。

HOTEL



Hotel Abest Happo Aldea 【ホテルアベスト八方アルデア】

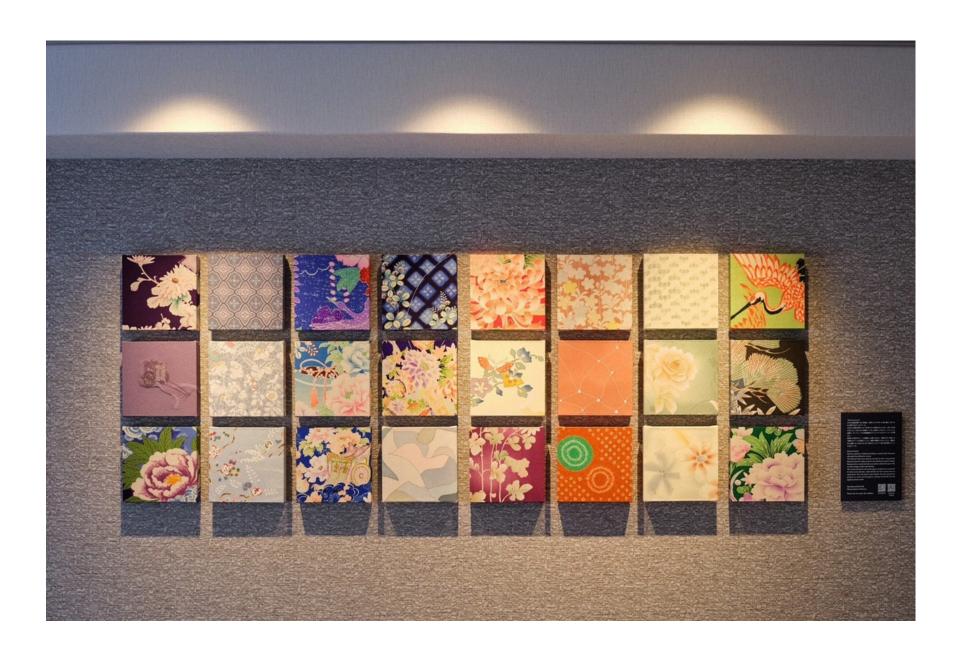
いただいたコンセプトによりイメージを膨らませ生地を選び ホテルディレクター様と調整。











order



想いの詰まったお着物から暮らしに寄り添うアートへ。 お客様の大切なお着物をお預かりし、 その想いや空間のイメージに寄り添いながら、 世界にひとつだけのキモノボードを制作いたします。

















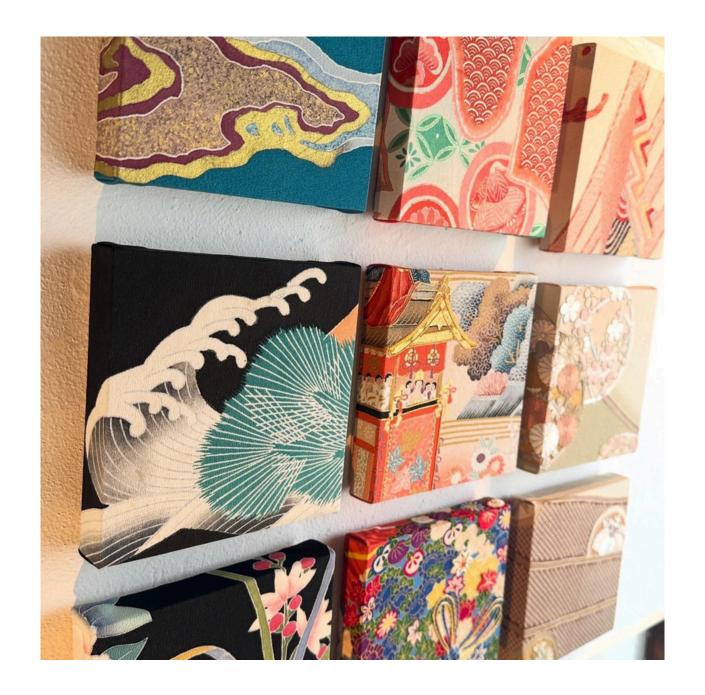
Display | Airport



日本の美を、世界へつなぐ場所として。 空港という"日本の玄関口"で、キモノボードが果たすのは、 一過性ではない文化体験の提案です。 着物の文様や質感が持つ深い魅力を、

アートとして、インテリアとして、そして"記憶を持ち帰るデザイン"として発信。 インバウンド観光の質的向上や、日本文化の継承·再解釈に貢献できると考えています。

For overseas



海外の方にも届けたい「和のかけら」 異国の暮らしの中にも寄り添う日本の美 着物の文様や色彩は、国境を越えて人の心を打ちます。 Japanese ART

"日本のおみやげ"として――













―― 時を越え、きものの柄が語り継ぐ。

今を生きる私たちが紡ぐ、新しい文化のカタチ。

伝統は、守るだけではなく、育てていくもの。
そのために、過去を慈しみ、今の暮らしに寄り添いながら、
未来へ問いかける"布の想い"を、アートとして発信しています。
一枚のキモノから生まれたキモノボードは、
やがて誰かの心にそっと根づき、また次の循環へと
つながっていけばと願います――

にっぽんの心がこのARTで、未来へつなぐ小さな波紋へとなりますように・・・

